

Drug & Alcohol — Addiction — Rehabilitation — Center

潮騒通信「どっこい生きてます！」

ファイザー助成事業で念願の就労支援プログラム開発に

平成 24（2012）年が明けました。本号が皆様の手元に届くころは1月も半ばを過ぎてすっかり正月気分は抜けているでしょうが、今年も潮騒 JTC の活動に温かな視線と、できる範囲でのご支援をお願いします。

さて、越年してしまいましたが、年頭から支援者の皆様にうれしいご報告があります。潮騒 JTC は昨年 12 月、競争率が約 15 倍の難関を突破して、世界的な製薬会社ファイザー株式会社が取り組む 2011 年度（第 11 回）「ファイザープログラム～心とからだのヘルスケアに関する市民活動・市民研究支援」の新規プロジェクト助成団体（新規助成は全国で 12 団体）に選ばれました。プロジェクト名は「薬物・アルコール依存症者の自立支援および就労プログラム開発モデル事業」で、助成額は 200 万円です。今年 1 月から 12 月までの 1 年間に掛け、ダルクの大きな課題である社会復帰に向けた就労支援や職業訓練の実践的で体系的なプログラムを開発していく意欲的なプロジェクトです。

昨年 12 月にファイザー本社（東京・新宿区）で行われた贈呈式に参加し、梅田一郎社長から直接、助成決定通知書を頂いた際に、私は言葉にできない深い感動を覚えました。長く社会から疎外され、恐れられることはあっても認められることのなかった任侠道一筋の反社会的な人生が、晩年になってダルクによって助けられて回復し、私のような者でも依存症に苦しむ仲間たちを助ける立場を得ただけでも「奇跡」です。加えて今回、このような意義ある助成事業の一隅を占めることができた幸運に感謝の念を禁じ得ません。このビッグなプレゼントに、私たちが信じるハイヤーパワーの存在を改めて実感しました。提案したプロジェクトの企画内容やファイザープログラムについては特集面（5、6、7 頁）をご覧くださいとして、このプロジェクトを成功させるには皆様のご支援、ご協力が欠かせません。ともすると受賞したことの責任の重さに圧倒されがちですが、手持ちの駒は少ないとしても地域の関係者の皆様の力をお借りして、実りの多いプロジェクトにしていきたいと考えています。

最後に今年の“妄想”ですが、重複障害者向けにグループホームやケアホームに挑戦し、女性回復施設の開設準備を進め、円満退寮者を増やしながらスタッフ育成にも力を入れます。欲張り過ぎかもしれませんが、60 代最後の 1 年を全力疾走して停滞気味の入寮者の回復意欲を引っ張っていきます。今年もどうか宜しくお願いします。（施設長 栗原 豊）

SJTC

SHIOSAI JOB TRAINING CENTER

2012年

1月号 一部100円

Contents

- P1 ファイザーの助成決まる
- P2 今年の施設運営の目標
- P3 入寮者が鹿島神宮で初詣
- P4 フォト・歳末恒例餅つき
- P5 ファイザープロジェクト1
- P6 ファイザープロジェクト2
- P7 ファイザープロジェクト3
- P8 クリスマス&誕生月
- P9 近藤恒夫さん講演 N08
- P10 受刑者からの手紙
- P11 しおさい文芸コーナー
- P12 行事予定&献金・献品



潮騒 JTC の施設駐車場入り口に、待ち望まれていた施設の看板が設置されました。

激動の旧年から希望の新年へ ＝2012年の施設運営をめぐって＝

今年の目標は多様化する依存症者への対応と社会復帰を目指した就労支援プログラムの開発です。

アルコール（薬物・ギャンブルも）依存症の回復施設なのに不謹慎だと言われるかもしれませんが、新約聖書に「新しいブドウ酒は新しい革袋に盛れ！」という例え話があります。新しい内容や思想は、それにふさわしく新しい形式で表現すべきだという意味です。3・11 東日本の巨大地震と大津波、原発事故というトリプルパンチで苦しんだ（今もその苦しみは被災地では癒されていませんが）2011年でしたが、日本の国そのものに当てはまる教えです。アディクション（依存症）の世界では、「底つき」体験が回復へのスタートラインなるという考え方があります。最近「底つき」万能論も見直されているようですが、2012年は日本の国が「底つき」から這い上がる希望の年としたいものです。潮騒JTCでは今年、助成を頂いたファイザープログラムを柱にしながら、多様化傾向にある依存症の入寮者への適切なケアに努めたいと考えています。施設に課題が多いのは確かですが、ともすると「このまま潮騒施設にいても先が見えない」「生活ビジョンが立たない」という入寮者の不満や批判の声を耳にします。依存症の回復に焦りは禁物ですが、施設としては「今、ここ潮騒にいる」意味を問い直し、自分の病気（依存症）と謙虚に向かい合ってほしいと思います。遠回りに見えても、それが回復への王道です。孤立しがちになったら仲間に助けを求め、施設スタッフに相談してください。今年は回復者カウンセラーのスタッフ育成に力を入れます。そのため引き続きアディクションカウンセラーの資格取得や他のダルクへの研修などで視野を広め、スタッフ自身のスキルアップを図っていきたいと考えます。大規模化したことで入寮者の「ハードルが低すぎるのでは？」との反省もありますが、潮騒JTCでは“治療的なスリップ”を認めて、息の長い「回復」を図っていきます。大事なことは、施設が何をしてくれるかではなく、この施設で自分に何ができるかを問うことです。今年も入寮者の依存対象に目配りして適切なケアに努めたいと思います。（事務局スタッフ一同）

今年も季節感を楽しめる施設運営に工夫します

今年1年の平安と円滑な施設運営を祈願して、みんなで鹿島神宮に初詣をしました。年々正月の風情が地域から消え、家々の正月飾りも少なく、会社などの門松やしめ縄を付けた車はほとんど見かけません。スーパーも元旦から営業し、子供たちの歓声が響く羽子板やコマ回し、凧揚げの正月風景は皆無です。日本の伝統文化が失われていく寂しさを感じています。そうした反省から、せめて施設内では餅つきや初詣などで年末・年始の風情を味わってもらっています。こうした思いを通年で実現できるよう、今年も季節感を感じられる各種イベントや地域の伝統行事に参加し、四季折々の変化を楽しめる日帰りミニツアーに取り組みます。約70人に及ぶ大所帯の移動は大変ですが、停滞しがちな入寮生活に少しでも変化を与え回復プログラムへの取り組みにプラスとなるよう工夫を凝らした施設運営に努めます。（豊）



今年も入寮者が鹿島神宮で初詣



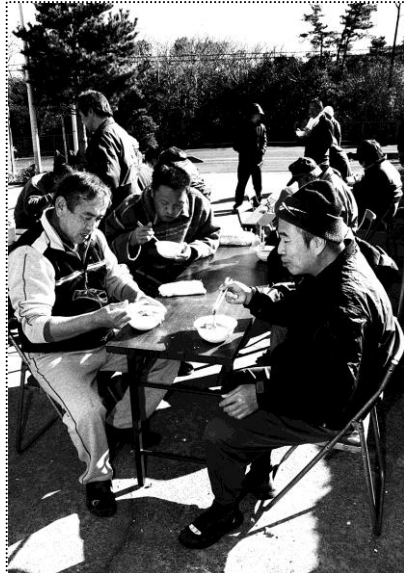
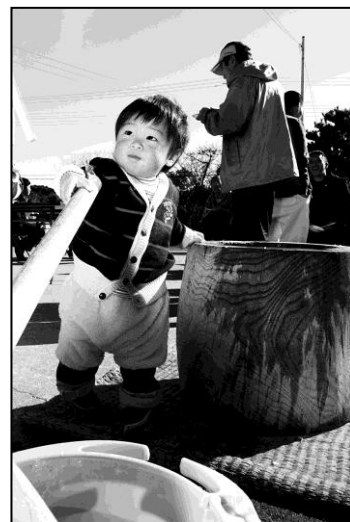
潮騒JTCは新年1月4日に活動を開始。まちづくり市民センターでの新年会では施設側からお年玉をもらい、続いて武勲の神様を祭る近くの鹿島神宮に初詣しました。賽銭を捧げ手を合わせ、それぞれが願い事を託しました。



餅つきフォト特集



暮れも押し詰まった12月28日、本部施設の駐車場で恒例の「歳末餅つき大会」を開きました。入寮者らは、きなこ、大根おろし、茨城には馴染みの納豆、野菜汁でつくたての餅を味わいました。



世界的な製薬企業ファーマーの市民活動助成団体に

念願のジョブトレ・プログラム開発へ

本号 1 頁の栗原施設長による報告の通り、潮騒 J T C が独自の市民活動として企画提案した「薬物・アルコール依存症者の自立支援及び就労プログラム開発モデル事業」が昨年暮れ、栄誉あるファイザープログラムの新規助成事業として選定されました。潮騒発足 6 年目にして念願だったジョブトレーニング・プログラムの開発に本格的に取り組むチャンスを得た訳です。本プロジェクトの背景や問題点、企画の内容、ビジョンなどを以下にまとめて示します。

プロジェクトの背景とめざすもの

潮騒 J T C はダルクの関連団体ながら、入寮者は薬物よりもアルコール依存症者が圧倒的に多く、他のダルクとは差異を見せている。アルコール依存症者は過去に一定の就労体験があり社会経験を持つ者が多いことから、当施設ではリハビリ後に地域で健常者と同じように自立した生活を送ることが可能となるよう、早くから社会復帰を意識した職業訓練について、試行的ながらボランティアの仕事プログラム（形は地域貢献活動）に積極的に取り組み、自力で雇用環境の開拓などに道を開いてきた。しかし、地域社会ではアルコールや薬物依存症に対する理解がまだまだ低く、長引く景気低迷を反映して実際に就労につながるケースはほとんどない。このままでは回復しても社会復帰は難しく、勢いダルク施設内にとどまり、各地のダルク施設を移動・滞留する傾向が加速され、中間施設本来の役目が果たせない。このため施設で一定程度、回復をみた者たちの社会復帰を応援するシステムづくりが早急に求められる。本プロジェクトでは、そうした依存症者の職業訓練、就労支援に関する新たなプログラム開発と地域における受け皿づくり、雇用環境のネットワーク化を目指す。これが実現できれば、全国のダルクが共通して抱える入寮者の①ダルク内滞留化②高齢化傾向③重複障害者の増加④生活保護頼りという困難な課題解決の一助となり、全国のダルクにとって就労支援のモデルケースとなる内実を含んでいると考える。

プロジェクトの効果と社会的な意義

アルコール・薬物依存症者が精神科病院や行政機関の福祉窓口、矯正施設などを経て幸運にも専門のリハビリ施設につながり、ここで一定の回復を見た者が社会復帰して一般市民として自立した生活を営めるようにするために、本プロジェクトではその前提となる職業訓練や就労支援の体系化されたプログラムを開発し、同時に地域の受け皿となる雇用環境を整えたいと考えます。また、それを下支えする地域ネットワークを形成し、全国のモデルケースとなるようにしたい。その実績を地道に積み重ねることができれば、社会におけるアルコールや薬物依存問題についての誤解や偏見の改善に影響を与え、各種依存症者が地域で当たり前で生活する風土を形成することができるようになる。従来の「罰を与えて終わり」から一歩踏み出して、アルコール・薬物依存症者（最近ではギャンブル依存症者も）らを有用な社会資源の人材として更生・活用することで、社会福祉的なケアを施しながら納税者として新たに育て上げ、微力ながらも疲弊著しい国家経済に寄与できると構想する。

ジョブトレ・プログラム開発メニュー

選定委員会の推薦理由

- 潮騒 J T C 入寮者への職業訓練・就労支援に関する意識調査の実施
- ファイザープロジェクト推進委員会と実務者会議（ワーキンググループ）の定期開催
- 「潮騒 J T C ・就労支援地域ネットワーク会議」の設置・運営
- 入寮者のニーズに沿った職業訓練、免許・資格取得、スキルアップの取り組み
 - ・ 農業に関する技術の習得（水稻栽培・野菜やサツマイモ栽培・シタケ栽培）
 - ・ 農業機械の操作訓練（トラクター、田植え機、コンバインなど）と運転免許取得
 - ・ 造園・土木等の作業体験（植木や庭木の剪定、庭石・造園管理、配管整備など）
 - ・ 建築作業現場の体験（家屋解体や一戸建てモデルハウスの建設）
 - ・ 重機オペレーターの操作訓練、希望者への免許取得にチャレンジ
 - ・ パソコン関係スキルの習得（文字入力、ワード・エクセルの基礎など）
 - ・ 便利屋作業体験（草刈り・ペンキ塗り替え・資源リサイクル業務など）
- 地元のハローワークとの連携による入寮者の就職相談と就労に関するノウハウ習得
- 就労問題に先進的に取り組む全国のダルクや福祉施設への視察研修
- 薬物・アルコール依存症者の就労支援フォーラムの開催
- 事業報告書の作成と地元への配布（企業や個人事業主、職能団体など）

薬物やアルコール依存症者の回復プロセスにおいて、職業を得て自立することは非常に重要である。しかし、社会における依存症への理解は乏しく、依存症の既往歴を持つ者の雇用は厳しい。そのため、回復途上の依存症者は、支援施設内に留まらざるを得ないのが現状である。

本団体は、茨城県鹿嶋市において複合型依存症施設として、依存症者の支援を5年にわたり行い、当初から一定の回復に達した依存症者の職業支援を手探りで行ってきた。本プロジェクトでは、より組織的な職業訓練、地域における雇用場所の開拓、地域の雇用環境のネットワーク作りなどを発展させ、より多くの依存症者の社会復帰を目指す。

従来の依存症者への支援が、施設内での依存症の回復に焦点が当たっていたのに対して、本プロジェクトは、本格的な社会復帰を志向しており、依存症支援の新しい局面を開く意欲的な試みであると言える。



ファイザー本社の贈呈式で梅田一郎社長（左）から「助成決定通知書」を受ける潮騒 J T C の栗原豊施設長。3分間スピーチにも立ち、「かつてない深い感動を体験した」と感想。

※贈呈式の後には懇親交流会があり、受賞した新規助成団体や継続団体の関係者らと名刺を交換しました。

施設の話題あれこれ

恒例のクリスマス会で入寮者全員にプレゼント



単調になりがちな施設での生活で、入寮者に楽しみなのは季節ごとの風物詩ともいえる各種イベント。昨年12月23日には、鹿嶋市まちづくり市民センターで恒例のクリスマス会が開かれ、結構高価な生活必需品が当たる（空くじなし）各種プレゼントが手渡された。また、12月誕生日の仲間たちのバースデーを祝った。チキンとお菓子を食べながら、入寮者らは楽しい時間を過ごした。

★動き出したファーマーPのプロジェクト第1弾★



本号で特集したファイザープロジェクトの第1弾は家屋の解体作業のノウハウ修得。準備のために過去に解体業を体験していたメンバーが解体する老朽小屋を下見。「こりゃ3日はかかるな」とはベテラン入寮者の感想。

NPO法人・栃木ダルクが実施したアディクションカウンセラー養成事業が1月11～13日に宇都宮市内で開かれ、栗原施設長と事務局のルミさんが参加しました。収穫多し！

1月誕生日の仲間たち



誕生日おめでとう！



キク

ユウ

ヒロシ

タケシ

モリ



続・ダルク25年の歩みから**厳しい現実に向き合っているダルクの就労問題****近藤恒夫さん講演****連載第8回****● “ダルクツアー” が増えて…**

今ではダルクも全国に60カ所以上できたから、こっちのダルクはだめだけど、あっちのダルクなら何とかやっていけそうだというように、自分に合ったダルクを探せるようになった。最近、次から次へとダルクを渡り歩く連中も増えている。いわゆる“ダルクツアー”だな。回復の受け皿というか、そうした選択肢がずいぶんと増えた分、ダルク内でもいろんな回復のスタイルを模索できるようになった。それはいいことなんだが、どうも各地のダルクを移動するだけで、いつまでたってもダルクを“卒業”できない人たちが増えている。肝心の社会復帰や自立に向けた動きが停滞しているように感じるんだな。

ダルクの基本はその名の通り薬物依存症の回復を目指すリハビリ施設。依存症治療の居場所であり、回復への通過点にすぎない。ダルクは本来、長く留まる場所ではない。社会との中間に位置づけられる回復訓練施設だから、所定のプログラムを終えたら、その人の回復の度合いに応じてより社会生活に適合できるように動機付けしなければならない。

かといって急いで社会復帰しても、この不景気な世の中だ。都合よく就職なんかできない。大卒者が就職難な時代だし、ハローワークに行けば手に職を持っている人でさえ職を求めて列をなしている。誰が好きこのんでヤク中やアル中を雇うかね？ 行政は簡

単に結果や実績を求めるけど、たやすく就労できる環境なんて、今の日本にはないよ。

●ダルクにもネットワークを

だから一部のダルクでは職業訓練みたいな取り組みをして自力で就労の道をさぐっている。それも厳しいけど…。潮騒ジョブなんか先頭を走っているのかもしれない。ただ、ダルクは万能じゃない。それでなくてもNPOだとか障害者自立支援の施設だとか、最近は刑務所から出所したヤク中さんの受け皿機能も期待され、スタッフは慣れない事務作業などに忙殺されるようになった。ダルクが一番、苦手な分野だよ。これへの負担が大きい。それでなくても高齢者や重複障害者が増えて、日々の病院通いでスタッフはへとへとだ。そこへもってきて、今度はハローワークのまねごとまで押しつけられる。これじゃパンクしちゃうよ、ダルクは。

だから、これからはダルクも相互にネットワークを組んで、いろんな役割分担をするようになっていくことが必要になるだろう。施設長の個性や得意分野が生かされるようにするのが理想だけれど、原点をわすれちゃ困る。失敗を許すのがダルク流だから、常に門戸はオープンにしてスリップしても、受け入れる度量は失わないでほしい。でも、あまりに居心地がいいと社会に出ようという意識が萎えちゃうかもしれないから、その辺のサジ加減は難しいだろうな。（続く）

受刑者のみなさんからの手紙(潮騒通信を読んで)**■潮騒通信の沢山のメッセージに励まされ**

…夜間、独居での生活をもっとうまく活用し、なぜ勉学に励むことができないものか(笑)、という反省はするものの、自分なりの努力をして無事にこの1年を過ごせたことに、少しは満足しております。そのように自分が思えるようになったのも、やはり栗原さんが毎月送ってくださる「潮騒通信」に載っている沢山のメッセージに励まされ、「前向きな姿勢」で自分が過ごせるからだと存じます。

待っている家族のない私にとって、出所後の希望なんてものは特になく、早くここを出て「あれがしたい」「これもしたい」と欲望ばかりが先にあったのです。今でも野心と云うものがまったくないと云えば嘘になります。できもしないものをいつまでも夢見ても仕方ありません。出所後は、潮騒（栗原さん）にお世話をいただき、栗原さんに「もうヨシ！」とお許しをいただけるまで何年かかるか分かりませんが、その時がきたら今度こそ、自分に相応しい生き方がそこに見えてくることと思います。

（北海道・K O）

■刑務所は反省よりも忍耐力がつきそう

今年1年いろいろな出来事がありました。が、務所での生活は確かに話題性のない生活で、何の変化もない毎日を過ごしております。でも、人の感情は常に変化して貼り紙のようにはさみで切ったり、糊で貼り付け出来るような単純なものでないから面白いのかもしれない。私も、この不自由な生活の中で辛い想いをしている時もあるし、笑って楽しい時もあります。ふと思うと、刑務所という所は罪の反省よりも、ここで

の辛い生活を我慢するだけの忍耐力が付いてしまいそうです。

私は精神力があまり強い方でもないのですが、今年1年間、何度も挫けそうになりました。その度に悩んだり、落ち込んだ日々もありました。その時に私を勇気づけて励ましてくれたのが栗原さんからの郵便物でした。毎月の潮騒通信が送られてくるのが楽しみでした。また、返事を書くのがとても楽しみで、どんな内容を書くかいつも考えています。

（東京都・KH）

■寒い！ 生まれて初めて雪かきを経験

初の円満退寮者、おめでとうございます。（略）私事ですが、冬季は除雪作業が多く、先日は生まれて初めて雪かきをしました。思っていたより大変でした。これから本格的な雪かきになりますが、頑張ります。でも、寒いです。寒くて顔が痛いです(笑)。ここでの初体験、雪かきはもうすることはないでしょうね。鹿嶋は雪がないですから。でも、社会活動のために役立つよう、身体を鍛えようと思っております。

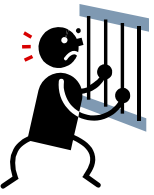
（北海道・Y H）

■お陰で少しずつ自分が変わってきました

手紙拝読致しました。“自分を変えること”ですか？ 施設長との手紙の交通をしてから自分でもはっきり分かるほど、少しずつですが変化が表れてきました。まず1つは職員からの注意がほとんどなくなったこと。もう1つは注意をされてもすぐ謝れるようになったことです。（略）右往左往の繰り返しで何かと大変ですが、頑張ってみようと思います。何しろ、この私が経理工場に配役される事など考えてもいなかったもので…。

（北海道・I Y）

※原意を変えない程度に手を入れました。



帰ろうね西の寒空あかね色

潮騒・友子

「帰ろうね」からは、旅の帰り、帰郷の思い、買い物の帰りなどを想像でき、また童謡の夕焼け小焼けも懐かしいですが、女性らしい優しい思いの句です。寒の夕空は寒茜とも云い、束の間の夕焼けは切ない思いになる。次の様にして句意を鮮明にしても良いです。「帰ろうね西の故郷に寒茜」

震災の瓦礫の山に初日の出

潮騒・稔

昨年の大地震後は各地で瓦礫の山ができ、まだ処理できずに残る報道などを見るたびに胸が痛む。その瓦礫の山に初日を見るのは、とても風情や目出度さは思えないが、これも現実の景としての一句で早い復興を祈るばかりです。

吹き溜まる落葉に埋もる子犬かな

潮騒・豊

子供の頃、故郷では堆肥にするため落葉を集めていて、そこに跳び込んで遊びましたが、これは神社か公園などで落葉の中に子犬が埋まるかわいい句。原句は枯葉ですが、落葉の方が良いのでは。

交番の銀杏葉掃き出す竹箒

潮騒・豊

銀杏の葉を掃き出すほどに溜まる交番は公園の近くなどを思いますが、お巡りさんの留守の開け広げた交番も身近で長閑（のどか）に思えます。「交番の銀杏の落葉掃き出せり」にして簡潔な句になります。

冬落暉利那の命由比ヶ浜

潮騒・豊

冬落暉（ふゆらつき）は冬の束の間の夕日のことで、茜に燃えるが、すぐに消える。それだけに心に余韻を残す。また、由比ヶ浜は鎌倉のことかも。ここは新田義貞と鎌倉武士の古戦場跡だが、今は湘南の海水浴場としても有名。それを思いながら冬の夕日を眺める句ですが、「冬落暉いまを利那に由比ヶ浜」くらいの方がいろいろな思いを宿して良いと思います。

新玉を瓦礫の山と迎えをり

潮騒・稔

新玉は枕詞で、春、年、月、などにかかる。また掘り出してまだ磨かない原石の意で、年の初めの意になったとも。その新年を迎えるに瓦礫の山を前にするのは悲しい。私にも「綿雲のひとつとき包む地震の跡」があり、包帯のように包む雪の下地震の疵を思います。

人の世に來世あるなら迷わずに彼女と共に生きたし

東京・一正

冬雲の気ままに流る様を見て鉄の格子で捕まえてみる

北海道・章三郎

しおさい文芸コーナー

選者 桐本石見

Information

1 月行事予定

- 1 7 日 東京アディクション交流会（鹿嶋）
 1 6 日 とまりぎアルコール相談（新宿）
 2 1 日 秋元病院メッセージ
 D A R S 研修会（川崎）
 2 2 日 潮騒家族会
 2 8 日 北関東薬物関連問題研究会
 2 9 日 三重ダルクフォーラム
 アディクションセミナー
 3 0 日 全国ダルク責任者研修会（東京）

2 月主要行事予定

- 3 日 豆まき（鹿嶋・護国院）
 1 2 日 秋元病院メッセージ

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は
 全員の方に同封させて頂いております。
 どうぞご理解の程をお願いします。

10月 献金・献品を戴いた方々

▼献金を戴いた方

山下 佳子 様
 （プー横丁『保育園』）
 武井由美子様
 石田 啓子 様
 富井 建夫 様
 （千葉菜の花家族会）
 高田 武義 様
 亀井 晃 様
 （司法書士）
 坂西 ミヤ 様
 石井照明 様
 早川医院 様

▼献品を戴いた方

下里 光雄 様
 高田 武義 様
 小林 祐久様
 宮中グリーンホーム

☆ほか匿名の皆様から献品・献金をいただきました。ありがとうございました。

今月も多くの方から献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

編集・発行

特定非営利活動法人

潮騒ジョブトレーニングセンター（本部）

〒314-8799

鹿嶋郵便局 私書箱 34 号

〒314-0006

茨城県鹿嶋市宮津台 210-10

TEL/0299-77-9099 FAX/0299-77-9091

潮騒リカバリーホーム

〒314-8799

鹿嶋郵便局 私書箱 56 号

〒311-2213

茨城県鹿嶋市中 2773-16

TEL/0299-69-9099 FAX/0299-69-9098

E-MAIL k.s-darc@orange.plala.or.jp

潮騒 JTC ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

編集後記

約 1 年間、スタッフとして入寮者のケアやニュースレター制作に加わった若手サポートスタッフが昨年暮れにリタイアした。困難な病気が発覚し、施設運営をめぐる悩みも増幅して自分の中で矛盾が膨らんだようだ。ダルクの良さである「いい加減」を自分の生き方に反映させてほしいと願っていたのだが…。よく世間は世俗の处世訓として「青臭い」と、青春期の無垢で純真な心情を引きずる生き方を腐すけれど、墮落した社会に同化できない生きざまを簡単に否定する気にはならない。いつの間にか自分を棚に上げ、「いい加減」を都合よく解釈して自分の甘えや自己正当化の理由にしていなかった、スタッフのリタイアから考えさせられている。それにしても「ほどほどで生きる」のは実に難しい。（イチ）

発行所 郵便番号一五七—〇〇七三
 東京都世田谷区砧六—二六—二一
 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会
 （会費に含む）
 定価一〇〇円